

## 国語科における昨年度の授業改善推進プランの検証

- ・昨年度の分析の結果は、国語科全体の達成率は3学年とも、目標値を上回った。
- ・書くことの数値が上がった。「作文学習の際に、意図的に字数や段落を限定して作文を書かせる機会を作る。さらに、読むことの学習でも、読んで分かったことや場面ごとの感想等を書かせる機会を作る。理科や算数等の他の教科とも連携しながら、意見を書いた後、段落を分けてその理由を書く学習を意図的に行う。」といった取り組みの成果が表れたと考えられる。

## 国語科における調査結果の分析

内容別結果の分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>○分析の結果は、国語科の平均正答率は、目標値を上回った。前年度までの学習の実現状況については、おおむね良好といえる。特に、読むことの正答率は、目標値を大きく上回った。読書学習司書、図書館ボランティアによる環境整備、図書委員会による読書を推進させる活動、朝読書の成果と考えられる。</li> <li>○言葉の特徴や使い方に関する事項の正答率は目標値を大きく上回った。</li> <li>○情報の扱い方に関する事項の正答率は目標値を大きく上回った。</li> <li>○解答形式で見ると、選択、短答の正答率は8割前後で非常に高いが、記述は4、5、6年と学年が上がるごとに正答率は増しているものの、5割、6割、7割に留まった。</li> </ul>
観点別結果の分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「知識・技能」では、漢字の読み書き等、言葉の特徴や使い方に関する事項について安定している。</li> <li>○「思考・判断・表現力」の話す・聞くことについては、内容を聞き取ることはおおむねできた。しかし、話の意図を考えながら、大事なことを落とさずに、話の内容を聞き、メモを取ることは、少し課題がある。</li> <li>○「思考・判断・表現力」の書くことについては、目標値を上回り、おおむね身に付けることができたと言える。</li> <li>○「思考・判断・表現力」の読むことについては、目標値を上回った。今までの取り組みの成果と考えられる。</li> <li>○「主体的に学習に取り組む態度」に関しては、日常の授業の様子や課題に取り組む姿から、おおむねできていると考えられる。</li> </ul>

## 調査結果に基づいた授業改善のポイント

- 1 話の意図を考えながら、話の内容を聞き、メモを取る力を育てる。
- 2 間違いを恐れずに、自分の考えをもち、自ら表現できる力を育てる。
- 3 言葉の特徴や使い方に関する事項を身に付けることができるようにする。
- 4 段落のまとまりを考えながら、読み取る力を育てる。

## 国語科の授業改善策

- 話の意図を考えながら、話の内容を聞き、メモを取る力を育てる。  
低学年では、読み聞かせの後などに内容を振り返る機会を意図的に設ける。中・高学年では大事なことを選び取ってメモをする経験を久原フェスタでの発表や社会科見学等で計画的に行う。
- 間違いを恐れずに、自分の考えをもち、自ら表現できる力を育てる。  
低学年では、思ったことを話す、書く。中学年では、感想や気付いたこと、分かったことを自分の言葉で説明する。高学年では、事例や理由をあげて、自分の思いや考えを相手に伝える。国語科だけでなく、日常的に取り組む。
- 言葉の特徴や使い方に関する事項を身に付けることができるようにする。  
中・高学年において、いつも辞書を手元に置き、意味を調べたり、例文に多く触れさせたりして活用し、語彙を広げる。
- 段落のまとまりを考えながら、読み取る力を育てる。(説明的文章)  
読書を好む児童が多いが、読書の傾向が物語に偏りがちである。説明的文章を読み取る力を高めるために、低学年では生活科の学習に関連させて、中・高学年では理科や社会科の学習に関連させて教師が科学読み物を紹介する。各学年のフロアーに置く図書のテーマに科学読み物を選び、児童が科学読み物(説明的文章)に触れる機会を増やす。高学年では、新聞の活用も促す。

算数科における昨年度の授業改善推進プランの検証

・児童が興味、関心をもって取り組めるように体験的な活動を取り入れたり、教材を工夫したりしたことで、学習に主体的に取り組む児童が増え、校内平均点が4、6年生については2ポイント程度上昇した。  
 ・習熟度別学習をすることで、個に応じた授業を展開することができ、学習内容の理解が進んだ。  
 ・新しい課題の解決に向け、既習事項を用いて、自分の考えを図や表、式の変形、文章などで説明する時間を単元の導入時などを中心に設け、児童の考えを深める時間が増えた。  
 ・自分の考えを立式したり、図で説明したりする学習を取り入れることによって、個人差はあるが筋道を立てて考える力が少しずつ身についてきている。

算数科における調査結果の分析

内容別結果の分析	<p>○算数科全体の正答率は、どの学年も目標値より12ポイント程度上回っており、学習の現状については、良好と言える。</p> <p>○問題の内容別正答率では、特に「数と計算」の内容で4,6年が8割程度、5年生も7割7分程度と高い水準となり、授業改善の効果が見られる。</p>
観点別結果の分析	<p>○「数量や図形についての知識・技能」は、平均正答率が8割程度で、目標値を10ポイント程度上回っている。学習した内容が理解され、基本的な計算や処理をする能力は身につけていると考える。</p> <p>○「数学的な思考・判断・表現」は、平均正答率が6割程度であり、目標値を13ポイント程度上回っている。考える力を伸ばす指導を取り入れた成果といえる。しかし、他の観点と比べると、全体的にポイントが低くなっているため、継続して授業改善を行っていく。</p> <p>○「主体的に学習に取り組む態度」は、平均正答率が6～7割程度で、目標値を13ポイント程度上回っている。算数で学んだことを学習や生活に活用しようとする態度が見受けられる。しかし、学年が進むにつれてポイントが下がってくる傾向があるため、日常的に学習した内容を振り返るような手だてを講じていく。</p>

調査結果に基づいた授業改善のポイント

- 1 学習内容により、児童の実態に適した習熟度別学習の方法を工夫する。導入を工夫したり、生活に密着した具体物を提示したりすることによって、興味、関心を高めていく。
- 2 自分の考えを立式したり図で説明したりする場面を意図的に設定するとともに、算数的活動を積極的に取り入れる。
- 3 「数学的な思考・判断・表現」を育てるために、問題解決の流れの筋道を立て、明確な根拠を理由として説明したり記述したりできるようにする。
- 4 区のタブレット版ステップ学習プリントを活用し、児童の習熟度に応じた学習を進めることにより、すべての児童に基礎基本を身に付けさせるとともに、達成感をもたせる。
- 5 放課後や土曜日に行う算数補習教室を実施し、既習事項の確実の定着を図る。

算数科の授業改善策

○興味、関心をもって取り組めるよう、低学年では、身近にある具体物を多く用いるなど、工夫する。中・高学年では、量感を育てるために、具体物を使った体験的な活動を取り入れる。

○自分の考えを相手に分かりやすく伝えるために、どのように表現すれば良いのかを考えさせる。低・中・高学年で、具体物操作、絵、図、数直線、式、言葉、テープ図、線分図、表など、単元の指導内容に応じて活用できるように指導する。

○自分の考えを相手に伝える場を授業内で設定する。低学年ではペアでの対話、中・高学年では少人数グループで意見交流した後に、全体で検討するようにする。なるべく多くの児童の発言機会を確保することで、自分の考えを筋道立てて説明する力を高める。また、集団検討の場面では、図、式、言葉などを関連付けて捉えられるようにしたり、より効率的な解決の方法を話し合い、児童が互いに高め合えるようにする。

○「数学的な思考・判断・表現」を高めるために、低学年前期では式を見て具体物やイラストと同じ部分を探し、伝える活動を取り入れる。低学年後期から中学年前期では、これまでに学習した図やグラフ、式の変形を用いて自分の考えの根拠を説明する機会を設け、なるべく多くの表現方法で伝えるようにする。中学年後期から高学年では、他者の立てた式を見て、どのように考えたかを自分の言葉や文字で伝える機会を設け、書く側は他者が理解しやすいように式や図をかいたり、説明する側は式から情報を読み取ったりできるようにする。

○課題把握、見通し、自力解決、集団検討、まとめ、振り返りといった問題解決の流れを基本として授業を行うことで、自ら解決しようとする意欲を高めていけるようにする。

理科における昨年度の授業改善推進プランの検証

どの学年も各観点の目標値を上回っている。この成果は事象との出会いの中で意欲的に問題を発見し、問題解決に取り組んだことで実感の伴った知識を身に付けることができたと考えられる。また、自ら学習を進めるにあたっては、ノート指導を徹底し、考察の書き方を(予想との比較・今後取り組んでみたいこと)2つに分けて記述させる工夫が生かされてきたのだと考えられる。ここ数年の課題である知識の活用については、校内で研修会を開いたり、教員間で授業を公開するなどして活用の授業の充実に努めている。今後は対話を多く取り入れ、より客観的な見方・考え方を育てることで、科学的な思考力を更に高めていきたいと考え

理科における調査結果の分析

内容別結果の分析	<p>○理科全体の達成率は目標値に対して見ると、4年生は6.7ポイント、5年生は4ポイント、6年生は9ポイント上回っている。</p> <p>○昨年度の数値と比べ目標値を上回る数値である。実験ではなく観察や資料の読み取りが中心になるため、理解が定着してきたのではないかと考えられる。</p> <p>○全体として、目標値を上回っているが、5年の「生命・地球」の領域の理解が弱い。</p>
観点別結果の分析	<p>○「知識・技能」の設問では、どの学年も目標値を上回る結果が得られており、特に実験に力を入れて指導してきた成果が表れていることが分かる。</p> <p>○「主体的に学習に取り組む態度」の設問では、どの学年も区平均を上回る数値を示している。自ら問題を発見し問題解決してきた成果が出たと考えられる。</p> <p>○「思考・判断・表現」の設問はどの学年も区平均を上回る数値を示している。実験の結果から自分の言葉で考察させることで確かな知識となるように、引き続き指導に力を入れていく。</p> <p>○「主体的に学習に取り組む態度」の設問は、どの学年も区平均を上回る数値を示している。観察、実験から考察までを3年生から一貫した指導をしてきたことで、科学的な思考力が定着してきていると考えられる。</p>

調査結果に基づいた授業改善のポイント

- 1 主体的に問題解決をしていく力
  - 自然事象との出会いを効果的に行うことで、自ら問題を発見し意欲的に問題解決に取り組むことができるようにする。
- 2 問題解決型の学習の仕方を定着させることで科学的な見方・考え方ができる力
  - 生活体験や既習の学習をもとに、根拠をもって予想を立てることができるようにする。
  - 予想や実験結果を活用しながら考察し、個人⇒グループ⇒クラス全体で話し合い、自然事象への理解を深めることができるようにする。また、対話をしたあとに再考察することで、見方・考え方を広げ、深い知識につなげる。
- 3 日常生活の自然事象に適用する力
  - 一人一人が実験道具を扱い技能を習得するとともに、実験を通して得られた知識を日常生活の自然事象に適用したり、ものづくりに生かしたりすることができるようにする。

理科の授業改善策

**○自然事象や科学的な事象に対して興味・関心をもち、主体的に観察や実験に取り組む力の育成**  
 中学年…児童がもつ自然事象へのイメージに働きかけ、児童が調べる意欲をもてるよう導入の教材の工夫に取り組む。また、児童の言葉で学習問題を作れるよう、学習計画の工夫に取り組む。導入時に児童の興味・関心が高まるような模擬実験を行う。  
 高学年…児童が主体となって、既習の知識をもとに推論し、児童の考えを生かした学習計画となるよう、単元計画の工夫に取り組む。導入時に児童の興味・関心が高まるような模擬実験を行う。

**○生活体験や既習の学習をもとに、根拠をもって予想を立てる力の育成**  
 中学年…生活体験や既習の学習を想起させ、根拠が明確になるよう指導・助言の工夫をする。(この時、図を効果的に活用できるように留意する。)  
 高学年…課題を明確にし、条件を制御した実験・観察の方法を一人一人に考えさせ、妥当性を話し合わせる活動を問題解決型の学習に位置付ける取り組みを行う。

**○予想や実験結果を活用しながら考察し、自然事象への理解を深めるために**  
 中学年…予想や実験結果を比較しながら、根拠を明確にして言語化し(絵・言語・表・グラフ・モデル図・発表など)、児童自ら結論を導きだせるように話し合う活動(個人ーグループー全体)を問題解決型の学習に位置付ける取り組みを行う。単元のまとめを行い知識を定着を図る。  
 高学年…考察を言語化(言葉・表・グラフ・モデル図・発表など)し表現する中で、予想や仮説と関係付けながら表現できるよう指導・助言の工夫をする。考察の実証性・再現性・客観性を検討する話し合い活動(個人ーグループー全体)を問題解決型の学習に位置付ける取り組みを行う。単元で学んだ知識を活用して新たな事象を解明していく活用の授業を豊富に行い知識の定着を図る。

### 社会科における昨年度の授業改善推進プランの検証

○社会科の授業の中で、それぞれの学習段階において日常的に地図帳を活用するとともに、校内で都道府県検定を実施し、国土に関する知識獲得への意欲を促した。  
○資料の読み取りに関しては、どの学年も発達段階に合わせて工夫して提示している。中学年はイラストや写真から分かったことを学級で交流し、その集約から学習のまとめを行った。高学年では資料の中から必要な情報を抽出し、事実同士の関連を意識しながらまとめる活動をした。  
○表現活動としては、新聞記事をもとにしたスピーチや、社会的事象に関する課題について児童が議論するなど、学年の実態に応じて様々なものを実践した。

### 社会科における調査結果の分析

内容別結果の分析	○社会科全体の達成率はどの学年も目標値に対して約10ポイントを上回っており、前学年までの学習の状況についてはおおむね良好といえる。 ○カテゴリー別正答率では、4・5年生はすべてのカテゴリーで目標値を上回っている。しかし、4年生「安全を守る働き」、5年生「伝統や文化、先人の働き」に関しては、目標値との差が小さいので、重点的に指導していく必要がある。 ○6年生「国土の自然環境と国民生活」に関しては、全学年、全カテゴリーの中で唯一目標値を下回っている。区平均・全国平均も同様の結果となっており、小学校社会科教育全体で見たとくにもウイークポイントであると考えられる。
観点別結果の分析	○「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点において、すべての学年で目標値を上回っている。それぞれの学年において、学習効果は十分に上がっていると考えられる。 ○5年生の「思考・判断・表現」の観点は、目標値を上回ってはいるもののポイントの差は小さく、引き続き重点的に指導していく必要がある。

### 調査結果に基づいた授業改善のポイント

1 地図上の事柄について説明する力  
○どの学年でも地図を活用し、方位や地図記号、標高や位置など地理的な感覚を高める。  
2 資料を読み取る力  
○グラフや図、絵など様々な資料から情報を読み取る活動を重視する。  
○複数の資料から相違点、共通点を読み取る活動を重視する。  
3 自分の考えを表現する力  
○発言や文章、絵や図、ポスターなど様々な表現活動を行う。  
○資料をもとに理由を述べたり、推論したりすることができるようにする。

### 社会科の授業改善策

○どの学年でも地図を活用し、方位や地図記号、標高や位置など地理的な感覚を高める。  
社会科の学習において、3年生の段階から日常的に地図帳を活用することで、国土の地理的な理解に系統性が生まれる。具体的な例としては、3年生で学習する地図記号と、4年生で学習する等高線を用いて、5年の国土の学習の土地利用の課題解決を行うことなどが考えられる。  
○グラフや図、絵など様々な資料から情報を読み取る活動を重視する。  
中学年では、イラストや写真資料から気付いたことや分かることを学級で集約し、課題を解決することに始まり、簡潔なグラフの読み取り等も取り入れる。高学年では、グラフなどから分かる傾向などをもとに学習課題を見出し、資料から課題解決に向けた情報を抽出し、それらを関連付けながらまとめていく活動が必要になる。  
○発言や文章、絵や図、ポスターなど様々な表現活動を行う。  
新聞記事を用いたスピーチ活動や、社会的事象に関する今日的な課題についての議論、新聞づくりやリーフレットづくりなどの活動が考えられる。新聞やリーフレットで表現活動を行う際には、一見きれいにまとまっても、各項目の内容が教科書やその他資料の丸写しになっている可能性があるため、指導の際には注意が必要である。児童同士が議論を行う際には、既習の知識や生活の中での経験をもとに話し合わせるようにする。「いかす」の段階で行う際には、児童が自分の考えを広めたり、深めたりすることが目的なので、無理に教師が答えを出す必要はなく、オープンエンドになることも考えられる。

### 音楽科における昨年度の授業改善推進プランの検証

新型コロナウイルス感染予防のため、様々な対策を講じ、音楽の活動形態は大きく変化した。歌を歌うことが好き・どちらかというと好きという児童は多かったが、感染予防のため、マスクとフェイスシールドを使い短時間かつ大きくない声で歌うという形で再開した。器楽表現では、合奏することが好きな児童はほとんどであるが、技能や読譜力には個人差が大きかった。音楽づくりでは、取り組みを増やしたのでおもしろさを感じる児童が増え、音楽の要素、仕組みを生かして、工夫して作ることができる児童が増えている。曲を聴いて、音楽の特徴を理解し、曲想との関連に気付いて、曲の良いところを見つけて鑑賞できる児童が増えてきている。

### 音楽科における調査結果の分析

<p>内容別結果の分析</p>	<p>○器楽…昨年度は、楽器演奏に対する関心・意欲の高い児童は多く、進んで楽器を選択し演奏しようとするが、旋律楽器及び打楽器などによる基本的な技能の個人差が大きい。目指す曲想にするために担当楽器で強弱やリズムを変化させ、工夫のある演奏に取り組める児童が多かった。</p> <p>○音楽づくり…リズムや音の上がり下がりなどの音楽の要素や仕組みをいかして旋律づくりや、リズムアンサンブルづくりに取り組んだ。自分の表したい音楽を意図して作れている児童もいるが、努力を要する児童もいる。</p> <p>○鑑賞…音楽の要素や構造と曲想との関連に気付き、その曲のよさを感じて鑑賞できる児童が多い。また、自分とは違う友達の考えに触れ、曲のよさを新たに知り、曲を聴き深める児童も多くなる。</p>
<p>観点別結果の分析</p>	<p>○知識・技能 器楽…昨年度は、基本的な奏法の定着はおおむねできているものの、努力を要する児童も一部いた。</p> <p>音楽づくり…仕組みを理解して、音楽を作ることはほとんどの児童ができています。</p> <p>鑑賞…音楽を特徴付けている要素及び音楽の仕組みを聴き取り、その良さを感じることは多くの児童ができています。</p> <p>○思考・判断・表現力 器楽…楽器の特性や曲のよさを生かした演奏法やリズムの工夫をして演奏することができた。</p> <p>音楽づくり…音楽の要素を取り入れて旋律を作ることはできているが、めざす音楽を決め、自分の思いが表れるように、工夫することには個人差があった。</p> <p>鑑賞…多くの児童が、曲の良いところを見つけ、思いをもって聴くことができています。</p> <p>○主体的に取り組む態度 関心・意欲・態度 音楽に対する関心が高く、合奏、音楽づくりの表現活動において意欲的に取り組んでいる。</p>

### 調査結果に基づいた授業改善のポイント

1 知識・技能の充実  
○すべての児童が表現の技能を身に付けるために、見通しをもたせ、分かりやすい表示や提示、個々の状況に応じた指導を行う。

2 思考・判断・表現力の充実  
○様々な発想をもって即興的に表現したり、音楽の要素をや仕組みを生かしながら、思いや意図をもち、音楽をつくる。

### 音楽科の授業改善策

○知識・技能の充実のために  
低学年…教材や教具の表示を工夫しわかりやすくするとともに、個別指導で児童の状況に応じた指導を行う。  
中学年…教材や教具の表示を工夫してわかりやすくするとともに、児童同士の学び合いの場を設定する。  
高学年…活動の見通しを持たせ、ICTを活用してわかりやすい提示を行うとともに、児童同士の学び合いの場を設定する。

○思考・判断・表現の充実のために  
低学年…児童が見つけた様々な音で短いリズムをつくり、様々な発想をいかして反復したりつなげたりして音楽にする。  
中学年…いろいろな音の響きや組み合わせを楽しみ、こんな音楽にしようと思図をもち、試行錯誤しながら創意工夫させる。  
高学年…音楽を形づくっている要素を取り入れながら全体の構成を考えたりリズムアンサンブル、旋律づくりができるよう、提示を工夫する。

### 図工科における調査結果の分析

内容別結果の分析	<p>○作品づくりや鑑賞の時間では、よく観察し、自分で考え、試行しながら工夫したり、自分の言葉で友達に伝えたりしながら自己表現していける力を養う。</p> <p>○用途に応じて、様々な用具や道具、材料の安全な使い方を知り、練習を重ねて確実に技能を身につける。</p> <p>○美術館での鑑賞授業は、制限はあるが毎年実地されている夏休みドキドキ学校の講座で行い、鑑賞授業の面白さを伝えていく。造形遊びは、時間調整して無理のないように取り入れていく。</p>
観点別結果の分析	<p>○意欲・関心・態度 全般的には、達成できている。自分の思いを表すことが楽しいと思える児童が多い。画材も自分の思いを表現できるように選択の幅を広げた。保護者も協力的で素材も豊富であった。</p> <p>○発想・構想 言語活動を取り入れた相互鑑賞や振り返り等で、発想力が向上した。特に学習課程の様々な場面で取り入れたことが有効であった。しかし、自分に自信がもてず、周りを意識しすぎて発想できない児童がいた。</p> <p>○技能 系統的に指導計画に技能習得の時間を設定したことで、技能習得に役立った。繰り返し経験することで身に付くことも多い。既習事項を生かした学習ができるように指導計画を立てた。(例→4～6年で必ず彫刻刀、電動糸鋸の実技学習を取り入れる。)</p> <p>○鑑賞 言語活動を取り折れることで、鑑賞能力が向上した。造形表現したことや他の児童作品を鑑賞したことを、自分の言葉で話したり書いたりすることは有効である。美術館体験の必要性を伝えていきたい。</p>

### 調査結果に基づいた授業改善のポイント

<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 言語活動の重視。(例→鑑賞授業の中での取り組み)</li> <li>2. 造形遊びの時間と場所の確保。</li> <li>3. 鑑賞の環境づくり及び奨励。(例→校内の作品展示、久が原特別出張所のホール、区展、都展等への出品展示)</li> </ol>
---

### 図工科の授業改善策

<p>○作品づくりの上で、特に発想・構想が向上するために</p> <p>低学年で「造形あそび」の時間を設定し、計画を立てて取り組む。</p> <p>中学年で「造形あそび」と「鑑賞」の時間を設定し、計画を立てて取り組む。</p> <p>高学年で「作業計画表」の作成と「振り返り」及び「鑑賞」の時間を設定し、自分の考えを整理しながら見通しをもった作業ができるよう資料提供し取り組む。</p>
---

家庭科における昨年度の授業改善推進プランの検証

・自分の生活時間について振り返ることはできるが、そこから家族の役に立ちたい・団らんの時間を作る・家庭の仕事をするなどといったことを通して家族への心情を深めた児童がまだまだ少ない。気づく指導のさらなる充実が必要である。  
 ・調理や裁縫などの技能の習得については、家庭での実践を通して習得の深まりが見られる。個人差があるものの、友達同士で協力しながら行っている。

家庭科における調査結果の分析

内容別結果の分析	<p>A 家庭生活と家族 自分の生活時間を振り返ることで改善点を見つけることができるが、家族と自分をつなげ、感謝の気持ちをもつことに繋げられる児童は少ない。</p> <p>B 日常の食事と調理の基礎 実習には意欲的に取り組み、技能や知識を習得しているが、家庭での経験が少ないため個人差が見られる。</p> <p>C 快適な衣服と住まい 改めて考えると、家族に任せて過ごしてきた児童が多いが、体験的な授業をしながら学ぶことで意欲が高まってきている。</p> <p>D 身近な家庭生活と環境 ものや金銭、計画的に買い物をすることの大切さを学んできたが、環境の問題と関連付けて考える力や実生活に生かしたいという意欲が薄い。</p>
観点別結果の分析	<p>○家庭生活への関心・意欲・態度 家庭生活に興味をもち、調理実習や裁縫、洗濯などの実践的・体験的な学習に意欲的に取り組む姿がある。学校で学習したことを生かして家庭で実践することで、新しい手順や方法を学ぶ姿が見られた。</p> <p>○生活を創意工夫する能力 自分の身近な家庭生活を振り返ることはできるが、課題を見つけて生活をよりよくしていこうとする児童は少ない。</p> <p>○生活の技能 授業だけでは、技能を高めるには限界があり、個人差もある。それぞれの家庭生活でも、経験する機会をなるべく多く設ける必要がある。</p> <p>○家庭生活についての知識・理解 実践的・体験的な活動から得られた知識は身につけている児童が多い。</p>

調査結果に基づいた授業改善のポイント

- 1 実践的・体験的な活動を通して、生活に必要な基礎的・基本的な知識・技能を伸ばす。
- 2 家族とかかわり合いながら学習し、その学んだことを自分自身の生活に生かそうとする意欲を伸ばす。
- 3 問題解決的な学習を取り入れ、一人一人が生活の中から課題を見つけ解決していくような学習し、よりよい生活をしようとする意欲や能力を伸ばす。

家庭科の授業改善策

○実践的・体験的な活動を通して、生活に必要な基礎的・基本的な知識・技能を伸ばすために  
 →体験を通して感じたことや気づいたことを学習形態を工夫しながら班や学級で共有し、実感を伴った理解ができるようにする。

○家族とかかわり合いながら学習し、その学んだことを自分自身の生活に生かそうとする意欲を伸ばすために  
 →家庭での実践を多くとりいれ、その過程で家族とのかかわりをもつことにより多くの達成感を感じ、家族の一員として役立とうとする意欲をもつ。

○一人一人が生活の中から課題を見つけ解決していくような学習し、よりよい生活をしようとする意欲や能力を伸ばすために  
 →自分の生活や手順をについて自己評価をする時間を取り入れ、一人一人が課題をつかむ過程を大切に

### 体育科における昨年度の授業改善推進プランの検証

- ・一校一取組として、中休みに持久走タイムや短縄、長縄に積極的に取り組んだ。24年度より取り組んでい  
る、持久走月間、短縄月間、長縄月間の活動を継続したことで、25年度の体カテストの結果では持久力が  
東京都の平均よりも上回ることができた。
- ・さまざまな運動に意欲的に取り組む児童が多い。しかし、技能の個人差が大きい。
- ・体カテストの結果から、本校の課題である握力、投力の向上を目指した継続的な取り組みをさらに充実さ  
せる必要がある。

### 体育科における調査結果の分析

内容別 結果の 分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>○持久力(シャトルラン)…4年生と6年生以外は、東京都の平均を上回っている。</li> <li>○跳躍力(立ち幅跳び)…全学年が、東京都の平均をほぼ上回っている。</li> <li>○投力(ソフトボール投げ)…全学年が、東京都の平均を下回っている。</li> <li>○握力…全学年が、東京都の平均を下回っている。</li> </ul>
観 点 別 結 果 の 分 析	<ul style="list-style-type: none"> <li>○運動や健康・安全について思考・判断 運動の仕方を工夫し、技や動きをよりよくしようと活動することができなかつたり、自分の力を把握して、適切にめあてを設定することができなかつたりする児童がいる。</li> <li>○運動の技能 経験の差から技能に個人差が見られる。また、校庭で走り回ったり、ボールを投げたり、鉄棒を したりしながら自然に基本的な運動能力を身に付けている児童とそうでない児童にわかれる。そ の現象から、昨年度の体カテストでは、握力とソフトボール投げが区の平均よりも下回っている のではないかと考えられる。どの児童にも握力と投力が身に付く運動内容や場の工夫を考えて いく必要があると考える。</li> </ul>

### 調査結果に基づいた授業改善のポイント

- 1 技能や基本的な運動能力が身に付いている児童が少ない。  
→デジタル教材など、教材、教具の工夫して技や動きのポイントを理解できるようにする。
- 2 自分の力を把握して、適切にめあてを設定することができない。  
→毎時間めあての確認をしたり、学習カードを活用して振り返りをしたりして、自己の力を把握する。
- 3 技能に個人差がある。  
→スモールステップで取り組ませ、達成感を感じさせる。
- 4 握力と投力が東京都の平均よりも下回っている。  
→日常の中で握力や投力がつくような運動に取り組む機会を設ける。

### 体育科の授業改善策

- 教材、教具の工夫を通して技や動きのポイントを理解できるようにするために  
運動のポイントを拡大したものや、パウチしたものを作ったり、映像などを活用したりすることで視覚的に  
動きのポイントを理解できるよう取り組む。
- 自己の力を把握し適切なめあての設定をするために  
学習カードを活用し、明確なめあてを一人一人にもたせる。授業の中でめあてを友達に伝え合う時間を  
設ける。
- スモールステップで取り組ませ、達成感を感じさせるために  
教員が技能分析をして児童の実態に合った段階的な学習を行っていく。また、学習カードや場の工夫  
や、友達同士のアドバイスの時間を設ける。
- 握力や投力をつけるために  
毎時間、主運動につながる感覚づくりを行い、基本的な運動能力を身に付けられる準備運動の工夫をし  
ていく。



外国語科における昨年度の授業改善推進プランの検証

--

外国語科における調査結果の分析

内容別結果の分析	<p>○聞くこと…目標値を大きく上回った。普段からALTの発する英語をたくさん聞いたり、ICT教材を活用して聞くことに慣れ親しんできた成果が表れていると言える。</p> <p>○読むこと…目標値と同程度であった。アルファベットの文字を識別することはできるが、語句や文を読むことについては課題がある。</p> <p>○書くこと…目標値を大きく上回った。単元の中で4線上に自分の気持ちや考えを書く活動を行っている成果が表れていると言える。</p> <p>○話すこと(やり取り・発表)…何度も練習した表現を用いて友達とやり取りをしたり、発表したりすることができる。リアクションや質問をしながらの即興的なやり取りや、伝える内容を整理した上で工夫して発表することは課題である。</p>
観点別結果の分析	<p>全ての観点において、目標値を上回った。</p> <p>○知識・技能…アンケート調査によると、「英語の授業で苦手なことはあるか」という質問に対し、「単語を覚える」、「アルファベットを読む」といった項目についての回答が多く、新出表現に苦手さを感じていることが窺える。活動に対して自信がもてないと、活動の際に日本語を使ってしまう様子も見られた。</p> <p>○思考・判断・表現力…目的や相手に合わせて話題を選択することができるが、リアクションや質問をしながらの即興的なやり取りや、伝える内容を整理した上で工夫して発表することは課題である。</p> <p>○主体的に学習に取り組む態度…アンケート調査によると、9割の児童が、外国語にたいして好意的な回答を示し、意欲的な様子である。歌を振り付きで歌ったり、大きな声で発音したりすることができる児童が多い。ALTに英語で伝えたいという意識も高く、休み時間にも積極的に話しかけている様子が見られる一方、英語での発音に自信がもてず、積極的に話したがない児童もいる。</p>

調査結果に基づいた授業改善のポイント

<p>①「友達と伝え合いたい」と感じる活動の工夫</p> <p>②児童の話す力を伸ばすための工夫</p> <p>③コミュニケーション能力の基礎の育成につながる評価の工夫</p>	<p>児童が興味をもって取り組むことができる言語活動の充実を目指し、指導計画を立てる。</p> <p>英語を手段として、友達とコミュニケーションを取ることの楽しさを感じさせる。</p> <p>目標の明確化と学習課題の工夫、見通しと振り返り活動の工夫</p>
--	--

外国語科の授業改善策

<p>①「友達と伝え合いたい」と感じる活動の工夫</p> <p>② 児童の話す力を伸ばすための工夫</p> <p>③ コミュニケーション能力の基礎の育成につながる評価の工夫</p>	<p>低学年…低学年…歌やゲーム、絵本の読み聞かせ、体を使った活動等を通して、楽しみながら英語に慣れ親しむことのできる活動を充実させる。</p> <p>中・高学年…他教科や、学校行事、季節行事等と関連させた内容をテーマとすることで、児童が積極的にコミュニケーションを取ることができるようにする。</p> <p>中学年…自分の気持ちや考えを友達と伝え合う活動を取り入れて、英語での友達とのコミュニケーションの楽しさに触れさせる。</p> <p>高学年…普段の授業の中で、英語を聞く活動を多く行う。身近な話題について、児童同士で話す活動を定期的に設け、児童の話す力を伸ばす。その際、相手意識をもち適切なリアクションや語りかけなどのやり取りを繰り返す。</p> <p>中学年…外国語の知識だけでなく、友達とコミュニケーションをすることよさを感じられるようにする。</p> <p>高学年…事前に評価の観点を児童に知らせることで、一人一人が目標をもって活動できるようにする。</p> <p>学期に1回は発表活動を行う。振り返りを充実させ、次の活動に生かすことができるようにする。外国語指導員(ALT)と一対一で話す活動を行い、英語でのコミュニケーション能力を高める。</p>
--	--

(様式)

小中一貫授業改善プラン 重点観点及び重点指導事項一覧 (大森第十中学校区)

令和3年度

国語科

		観点別	
小学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重点観点		◎	
中学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重点観点		◎	
重点指導事項	・相手に分かりやすく伝えることができるための指導の工夫		

社会科

		観点別	
小学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重点観点		◎	
中学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重点観点			◎
重点指導事項	・興味、関心を高める教材の工夫		

算数・数学科

		観点別	
小学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重点観点		◎	
中学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重点観点		◎	
重点指導事項	・つまづきのある児童生徒に対する個に応じた指導の工夫		

理科

		観点別	
小学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重点観点			◎
中学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重点観点		◎	
重点指導事項	・生活とのつながりを大切にした教材開発		

音楽科

		観点別	
小学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重点観点		◎	
中学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重点観点		◎	
重点指導事項	・合唱などにおけるできるという達成感をもたせる表現活動の充実		

図画工作・美術科

		観点別	
小学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重点観点		◎	
中学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重点観点		◎	
重点指導事項	・小中での技能の系統を意識した、材料用具の指導法の工夫		

保健体育科

		観点別	
小学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重点観点			◎
中学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重点観点		◎	
重点指導事項	・苦手意識のある子への指導の工夫		

技術・家庭科

		観点別	
小学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重点観点			◎
中学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重点観点		◎	
重点指導事項	・小中の技能の系統を意識し、安全面への注意とICTを活用した到達目標が分かる指導の工夫		

外国語科 (英語)

		観点別 (指導要録に記載されているもの)	
小学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重点観点			◎
中学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重点観点			◎
重点指導事項	・小学校から中1へスムーズに移行するための教材や指導法の共有		